－「女性自立のための伝統工芸ティナラク織推進プロジェクト」完了　－

FIDR 助成の本プロジェクトは、この 3 月末をもって無事すべてのスケジュールを終了しました。研修終了後加入した 35 名の受講生を加えて 80 名となった現地組織 COWHED の組合メンバーが、一人一人、事業の成果を踏まえて、目標に向かって歩を進めてくれるものと期待しています。

すでに本会報で進捗状況を報告してきましたので、ここでは簡単に成果と課題をまとめました。日本での販路拡大も少しずつ進めています。これに関連して、持ち前のセンスのよさと隠れた商才を、各種イベント会場で発揮下さっている甲斐さんには下記の体験記を寄せていただきました。

なお、昨年の法人化に際して、活動に収益事業を含まないとした関係で、バザーなどでの現地工芸品販売は、文化紹介の広報活動の一環とし、経費を差引いた売り上げは全額現地 COWHED に還元します。

＜組合理念の学習と織・縫製加工技術研修＞

織手 30 名、縫製研修 5 名。成果が認められた織部門に対して、縫製は時間不足で不消化。研修終了後全員 COWHED に加入。

＜始業資金の貸し付けとその返済＞

順次組合に返済する契約を結んで、研修終了後、35 名全員に各 2000 ペソ（約 5,200 円）の原材料費購入資金を貸し付けた。

＜販路拡大のための機材整備と製品取扱店の新規開拓＞

カメラ、パソコン等の購入により製品カタログ試作。商品管理効率化。インターネット活用は今後に。製品取扱店数は 10 余。

＜今後の課題＞

売れる製品のデザイン研究。直営店舗のレイアウト改善。製品カタログの改良（撮影技術の向上、ビジネス感覚欠如の価格設定改善など）

熟練織手の手元を見つめる受講生（レイクセブにある COWHED 本部で）

＜　手工芸品の販売に参加して　＞

事務局非専従スタッフ　　甲斐京子

日比谷公園で行われた国際協力フェスティバル会場の工芸品販売ゾーンには、各国の製品をびっしり並べた小さな店が並んでいます。アジア、アフリカの製品が多いので、とてもカラフル。それに引きかえ私達の店先は「うーん、ちょっと地味かな？」そうなんです。熟練した女性たちが、伝統の織柄を丹念に織りあげたティナラクは日本のかすりにそっくり。店の前を大勢の人が通り過ぎて行きます。思わず叫んでしまいました。「これは手織りでーす。デパートなら、メーター９千円以上しますよ！」 沖縄の名産、芭蕉布とは親類筋に当たります。その価値を分かって欲しい気持ちが、学生時代の学校祭以来の売り子魂を呼び起こします。少しずつ人が集まり、小銭入れ等の小物から売れるようになりました。布地で購入してくれる手作り派も結構いることが分かりました。アジア的でしかもモダンな赤と黒の織柄は、和、洋どちらにもマッチするはずです。会場は売り手も買い手もお祭り気分。現地女性の正装に欠かせないビーズをふんだんに使った大きな髪飾りに魅了された若い女性は、しばし迷ったあと買ってくれました。ちょっと重そうだけど、厚底サンダルには合うかもしれません。派手かなと思うビーズのネックレスやブレスレットも結構好評です。

先程から、赤と黒の小さなブレスレットをじっと見ている小さな女の子。傍らのお姉ちゃんが、妹の手から小さな財布をとり、一つだけ入っていた百円玉を取り出しました。価格は１５０円。動こうとしない妹に耳打ちをして人込みの中に消えました。きっとママに支援を求めたのでしょう。息を切らしながら戻ってきた彼女は、大きく首を横に振りましたが、妹の視線はじーとビーズに。思わず「オマケしよう。」と言って、小さな手につけたとたん、返ってきたのは輝くような笑顔。お姉ちゃんの 10 円と合わせた 110 円とともに、二人のとびきりの笑顔を現地の人々に届けなければと思いました。

実質的な支援とともに、出会いを通して、一人でも多くの人の目を外に向ける活動も大切であると、はじける少女の笑顔から実感しました。どの店も、男女を問わず若い人からそれなり？の人まで、気負いのない自然体で生き生きと活動しているのを見て、“楽しくなければ、ボランティアじゃない。”という思いをさらに強めています。来年は皆様も参加してみませんか！